

「情熱大陸～先輩たちの軌跡～」

これは2013年3月18日(月)の3・4時限にかけて、桑高全日制の1・2年生が参加して、実施された総合学習のタイトルです。体育館の床に座り込んで、先輩たちの話を1時間半ほど聞いたのです。初めての催しであり、同窓生が話すので、私も傍聴させてもらいました。予め特別な席は用意しませんということだったので、床に座るつもりで、座布団の代わりに防寒コートを持参し、カイロを貼って出かけました。会場に入ると、先生のご配慮で椅子を出して頂いたのです。楽でした。

この授業を発案したのは、同窓生の水谷康朗さん(S53年卒、水谷精機工務所社長)で、学校行事として実施されたのです。パネラーは伊藤由美子さん(S49年卒、税理士)、日沖靖さん(S52年卒、いなべ市長)、川戸由起さん(S52年卒、ガーデニング会社社長)、小杉悟さん(S54年卒、小杉食品社長)、山中浩二さん(S61年卒、JAXA)と水谷康朗さんで、40歳台から50歳台で、現役で仕事をしておられる方々です。

日沖さん、小杉さん、水谷さんは親が会社を経営しており、子どもの時から親の背中を見て育ち、大学を卒業後は別の会社に一時就職して、のちに家業に就かれた由。いずれも一流の大学を出て、家業とは言え、中小企業を継がれるために郷里に戻られたのです。日沖さんは更に大安町長からいなべ市長へと人生行路を大きく転身されました。

転身と言えば、伊藤さんはOLの道から一念発起して税理士の試験に挑戦して、資格を取られました。川戸さんは子どものころからピアノが大好きで、音楽大学でピアノを学び、卒業後はピアノを教え、主婦業をこなして居たのが、自宅の庭作りから、ガーデニングの道に進まれました。山中さんは飛行機に憧れ、パイロットになりたくて、試験を受けてパスをしましたが、最後の身体検

査で遺伝の心臓欠陥が見つかり、パイロットは断念して、宇宙科学の道に進まれました。

いずれにしても、学校で教える教科書だけでなく、人生体験の中で軌道を修正しつつ、歩いてこられたわけで、人生さまざまな生き方があることを、生徒たちに学び取ってもらえたと思います。

途中でトイレ休憩がありましたが、会場内はざわつきもなく、乱れた服装の生徒も見られませんでした。筆記用具を持参せずに、話を傾聴するように事前に連絡していたこともあるでしょうが、私語もなく非常に熱心に聞いていました。著名な大先生を呼んで来て、話を聞くのもよいのですが、同じ学び舎で学んだ先輩の話には親近感があり、生徒も興味深く聞き取ったことと思います。

良い企画であったし、今後も続けられることを望んでいます。欲を言えば、パネラーの数を減らして、一人々々の発言時間を増やしたり、会場からの質疑応答の時間を取る方がさらに親密になると思います。



桑高校長室にてパネラーの皆さまと 2013.03.18

左から西羽、川戸、日沖、山中、小杉、水谷、伊藤、丹羽教頭、朝倉先生  
(敬称略)